CTC
Challenging Tomorrow's Changes

D·Native

データ活用支援サービス
D-Native

ビジネス課題の
解決支援

近年、企業においてはSXへの対応が急務です。これにより、データ活用の重要性が向上、
データドリブン経営を目指す企業がますます増加しています。
一方、データ活用の全社展開はまだまだこれから・道半ばという企業も少なくありません。

こんな悩みはありませんか？

何から手を付けて
いけばよいか
わからない

ビジネス課題の整理ができていない・他社成功事例（活用方法）を知りたい・データ活用の効果を見極めたい・経営指標をダッシュボード化したい

CTCでは多くのお客様がデータ活用の進め方で悩んでいらっしゃる状況を鑑み
お客様における状況から選択できる2つのサービスメニューをご提案。
CTCにてデータ活用検討をリードします。

先ず社内でのデータ活用の具体的事例を作りたい

① ニーズ掘り起し支援

部門でのデータ活用から全社での活用に広げたい

② 構想策定支援

使い勝手が良くちょうど良い基盤を速く導入したい

③アーキ作成・構築支援

実利的なデータ活用を進めたい

④BI／AI開発支援

データ活用サイクルを社内へ定着させ拡大させたい

⑤利用拡大支援

① ニーズ掘り起し支援

データ活用による期待効果が見込めるテーマ探しから
ビジネス改善のプロトタイプとなるお客様のデータを使った
ダッシュボードの作成までをリードします。

- 現業部門との協業体制の確立
- テーマ洗い出しと絞り込み
- データ活用の社内事例の早期確立
- 期待効果の見極めと次の打ち手の明文化

（シナリオ案、ダッシュボード
イメージの持ち込み）

いいね！こういうこともしたいね

**期待効果が見込める
「次の打ち手」が得られる**

② 構想策定支援

「いつ、何を実施し、どのような効果を創出し、いつまでに
どのような姿を実現するのか？」をDMBOKに基づくCTC
のベストプラクティスより計画を策定・明文化します

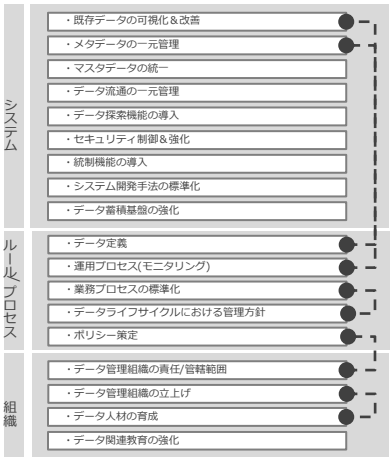
- 実行計画の策定
- データ活用ステップに係る合意形成
- ベストプラクティスによる全方位検討
- データ価値の最大化

データ活用を
どう進める？

適切な施策＆優先度設定に基づく
実行計画がなければ
- 成果を創出が不確実に
- 手戻りが発生
- 全社活動に発展しない

などの課題が発生、成果の獲得に至らない

**一過性の取組みで
終わらせないために
構想を策定し
社内で合意することが
極めて重要です**



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
流通ビジネス企画部
問い合わせ先：d-native-sales@ctc-g.co.jp

D·Native